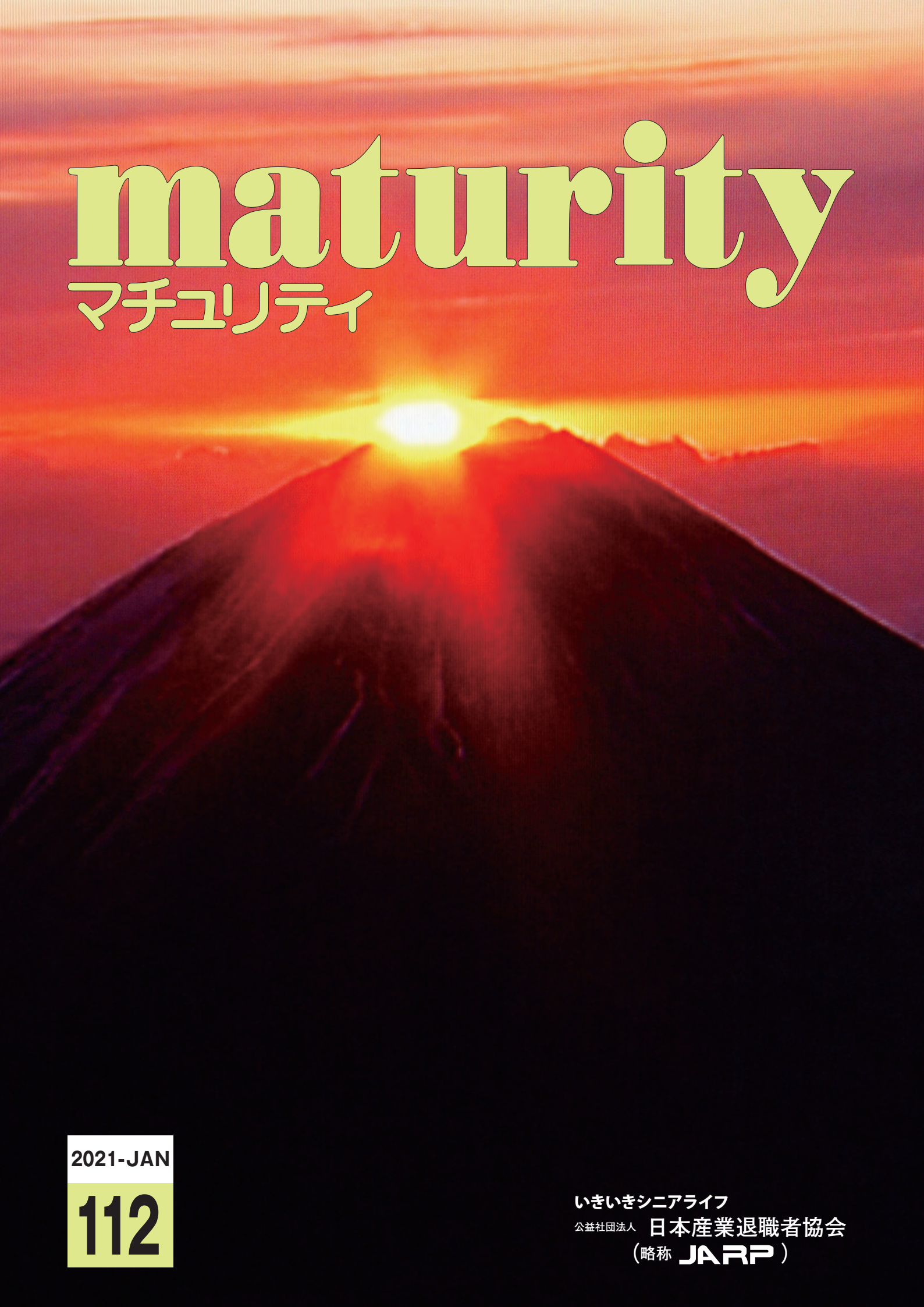


maturity
マチュリティ

2021-JAN

112

いきいきシニアライフ

公益社団法人 日本産業退職者協会

（略称 JARP）

maturity

“人格、才能の豊かで円熟” の意味

“第二の人生のために”

無為の人生は自らその老いを早め、
孤独の余生は座して終わりを待つに等しい。
進んで生きがいを求め、友と苦楽を共にし、
天寿の日々を悔いなく生きたい。

会員の多くは戦後の経済活動優先で豊かな生活を享受してきましたが、反面地球に対し様々な負の遺産を残しました。私達の地球は未来の子供達からの借りものです。汚れたまま、資源が枯渇したまま、次世代に引き継がせてはいけません。私達は 2015 年に国連で採決された SDGs の目標の中の海の豊かさ、陸の豊かさを守る社会貢献事業を行うこととしました。活動内容は本誌 10 ページに紹介させていただいております。
チャリティーコンサート、ボランティア活動、「いきいき基金」災害義援金等の社会貢献活動にも引き続き取り組んで参ります。どうかこれらの事業活動費へのご寄付をお願い申し上げます。

振込先

郵便為替　口座番号　００１３０−３−１３９３５３
加 入 者　公益社団法人　日本産業退職者協会

おそれいりますが、振込手数料はご負担願います。

いきいきシニアライフ
公益社団法人　日本産業退職者協会
（略称 JARP）

目　次 maturity 2021年／第112号

年頭所感	新年のご挨拶	吉川敏孝	2
相続法が大幅に改正されたことをご存じですか ～「遺言書」に関するアンケートの実施に伴い改正ポイントをご紹介～		事務局	4
ふれあいトークサロン	〈第41回〉 地球はあと何年もつのだろうか？	豊田直之	7
社会貢献活動	公益社団法人日本産業退職者協会の新規社会貢献事業 ～SDGsを目指して～	事務局	10
	プラキャップ 笑顔であふれる地球を目指して	小川晴美	11
マチュリティ談話室	天空の遺跡マチュピチュ紀行	塩山哲郎	13
	「地球一周ウオーキング」	木村一雄	14
	イケメン会	下江英昭	15
	「古稀」を迎えて思うこと	長嶋良一	15
	生き甲斐問答	平石純一	16
	星の数と故里	星洋一	17
ひとこと	「コロナを越えて」 池田依沙美／大野英明／尾形雅美／黒坂貞子／恒成憲一 長澤征次／平井勝子		18
同好会だより	江戸東京歴史散歩の会／神奈川　昼カラオケ会 詩吟会／竹とんぼ同好会／男声合唱クラブ 築地海鮮丼川柳会／歴史を考える会		19
首都圏だより	神奈川会／京葉会／埼玉会／西東京会		24
広島支部だより	「千年の時を超えて」	岡本典男	27
役員名簿／編集後記			28
法人・団体　会員名簿			

表紙写真　「希望」関根貞夫
裏 表 紙　出射義幸／坂本喜美子（広島）／三崎昭幸（広島）

年頭所感

新年のご挨拶

公益社団法人　日本産業退職者協会
理事長　**吉川敏孝**

明けましておめでとうございます。新年にあたり、ご挨拶を申し上げます。

昨年を振り返りますと新型コロナ感染症の悪夢の1年間でした。どんな時代になるにせよ、この悪夢から多くのことを学び、コロナ禍で生まれる様々な挑戦も日退協の新しい歴史を作ることになるに違いありません。

２０２１年は高齢者の働き方が変わる節目となる年です。高齢者雇用安定法の改定で企業は4月から従業員が70歳まで働けるよう努力義務を負うことになります。希望する高齢者には70歳まで継続的に「業務委託契約を締結するか」「事業主などが実施する社会貢献事業に従事できる」制度を導入することも加わります。人生の後半をどう生きるのか、一人ひとりの価値観が問われるようになり日退協の果たす役割も多様化してまいります。

重点課題

昨年、理事長就任時に社会貢献と会員間の親睦を車の両輪としながら、コロナ禍を乗り越えたいと申し上げました。初年度前半は会員の皆様の元気を取り戻すことに重点を置き、後半は活動を軌道に乗せるための準備期間とし、就任2年目には今まで培ってきた協会活動を活性化させるための新規事業に取り組みたいと申し上げました。新年を迎え皆様と共に次の課題に取り組んでまいりたいと思います。

第１　法人会員と個人会員の新規入会者獲得

新規入会員獲得の鍵は日退協が魅力ある活動をしているか又はしようとしているのかにかかっていると思います。

・前述しましたように、企業は70歳までの雇用を確保するため企業自身で社会貢献事業を創出する機運が高まっています。例えば企業がＳＤＧｓ等の分野で展開している事業に日退協がお手伝いする。その事が新規の法人会員獲得につながります。

・新規個人会員獲得は、高齢者に関心を持っていただけそうなイベント、野外サークル活動、文化サークル活動、地域会活動などを本部としてこれまで以上に積極的に支援していく必要があります。同時にこれらの活動内容をＳＮＳ（ホームページ、ツイッター、フェイスブック、インスタグラム、ＬＩＮＥ等）を活用して積極的に発信し、参加者の増加を図ります。

会員の皆様そして理事の皆様には是非1社でも1人でも会員の紹介を心掛けていただきたいと思います。

第２　新規事業の開拓

・会員がこれまでの経験を通して培ってきた技能や能力を生かしてその事業化をバックアップする（ドラえもんの引き出しの活用）。

・ＳＤＧｓに取り組んでいる企業、ＮＰＯ法人、公益社団法人、ＮＧＯ等との協働事業を進める。

・各法人会員への営業協力範囲を拡大する。

・エンディングノート「私の大切な覚書き」に続き、新刊書籍「遺言書」（仮称）の発行に関し、当協会が編集協力をする。

第３　事務運営の効率化

・オンラインの活用等による事務の合理化をさらに進める。

・公共施設や法人の施設を活用して低廉な会議室やイベント会場を利用する。

行動指針

この3点の重点課題に取り組むにあたっては、柔軟かつスピーディーに対応しながらコロナ禍を乗り越え、新しい協会運営を目指していきましょう。先述した重点課題に取り組むにあたり、皆さんと一緒に注力したいことは次の3点です。

一つ目は各人がスピード感と責任感を持って業務遂行をしていただきたいことです。

二つ目はコロナ禍で多くの価値観が急速に変化しようとしています。戦後の高度成長期に成し遂げた豊かさの一方で、地球環境の悪化をはじめ多くの負の遺産を次の世代に残す結果となってしまいました。未来を背負う子供たちにはこれ以上の負担はかけない、残さないという気概を常に持ち続けての事業展開を願っています。

三つ目は家族や社会に誇れる公益社団法人日本産業退職者協会の会員であるためには健康でいきいきと社会貢献ができる魅力ある団体としての環境づくりが不可欠です。

最後に、不確定要素の多い中ではありますが、日退協会員のmaturity（経験に培われた円熟）を発揮していただき、第2の人生のために、充実した日々を過ごそうではありませんか。

皆様の御協力を切にお願いいたします。

２０２１年元旦

相続法が大幅に改正されたことをご存じですか

～「遺言書」に関するアンケートの実施に伴い改正ポイントをご紹介～

公益社団法人 日本産業退職者協会　事務局

当協会は、事業活動の一環である「調査・研究」をとおして、新たな取り組みを実現するため、今般、会員向けに『遺言書』に関するアンケート調査を実施することといたしました。

昨年末に第一段階として東京地区の会員の皆様にお送りしたアンケートには、多くの方々［120名、回収率約20％（1月20日現在）］から回答が寄せられました。ご協力に感謝申し上げます。

約40年ぶりに相続法が改正されたこともあり、このアンケートにより、会員の皆様の『遺言書』に関する実情と課題を把握し、会員及び広く一般のシニアに役立つ社会貢献活動（遺言書の普及活動等）に活かしていければ幸いだと考えております。

ちなみに、約40年ぶりに、平成30年7月に改正された相続法は、平成31年（2019年）1月13日から段階的に施行され、最後に、創設された新制度「法務局における自筆証書遺言書保管制度」が令和2年（2020年）7月10日に施行されております。

ご存じでない方もいらっしゃると思いますので、新たな相続法の主要点について、以下、「政府広報オンライン」の情報より一部転載してご紹介いたします。

以下全て、「政府広報オンライン『約40年ぶりに変わる〝相続法〟！相続の何が、どう変わる？』(https://www.gov-online.go.jp/useful/article/201809/1.html)，暮らしに役立つ情報，令和元年（2019年）6日12日」より一部転載

約40年ぶりに変わる〝相続法〟！ 相続の何が、どう変わる？

平成30年7月に相続法が大きく改正されました。この改正により、例えば、残された配偶者が安心して安定した生活を過ごせるようにするための方策などが導入されることになりました。今回の改正により、自分が亡くなったとき、あるいは家族が亡くなったときに生ずる相続に関して、どのような点が、どのように変わったのかポイントを紹介します。

1. 相続に関して主にどのような点が変わったの？

配偶者居住権や自筆証書による遺言書の保管制度など新たな制度が設けられました

相続に関するトラブルを防ぐために、民法では、誰が相続人となり、また、何が遺産にあたり、被相続人の権利義務がどのように受け継がれるかなど、相続の基本的なルールが定められています。この民法の相続について規定した部分を「相続法」といいます。

相続法は、昭和55年（1980年）に改正されて以降、大きな改正は行われていませんでしたが、高齢化の進展など社会環境の変化に対応するため、約40年ぶりに大きな見直しが行われました。

今回の相続法の改正の主な内容は次のとおりです。

相続法の改正の主な内容

□配偶者居住権の創設

□自筆証書遺言に添付する財産目録の作成がパソコンで可能に

□法務局で自筆証書による遺言書が保管可能に

□被相続人の介護や看病で貢献した親族は金銭要求が可能に　など

(1)「配偶者居住権」の創設

配偶者居住権は、配偶者が相続開始時に被相続人が所有する建物に住んでいた場合に、終身または一定期間、その建物を無償で使用することができる権利です。

これは、建物についての権利を「負担付きの所有権」と「配偶者居住権」に分け、遺産分割の際などに、配偶者が「配偶者居住権」を取得し、配偶者以外の相続人が「負担付きの所有権」を取得することができるようにしたものです。上記のとおり、配偶者居住権は、自宅に住み続けることができる権利ですが、完全な所有権とは異なり、人に売ったり、自由に貸したりすることができない分、評価額を低く抑えることができます。このため、配偶者はこれまで住んでいた自宅に住み続けながら、預貯金などの他の財産もより多く取得できるようになり、配偶者のその後の生活の安定を図ることができます。

(2)自筆証書遺言に添付する財産目録の作成がパソコンで可能に

これまで自筆証書遺言は、添付する目録も含め、全文を自書して作成する必要がありました。その負担を軽減するため、遺言書に添付する相続財産の目録については、パソコンで作成した目録や通帳のコピーなど、自書によらない書面を添付することによって自筆証書遺言を作成することができるようになりました。

(3)法務局で自筆証書による遺言書が保管可能に

自筆証書による遺言書は自宅で保管されることが多く、せっかく作成しても紛失したり、捨てられてしまったり、書き換えられたりするおそれがあるなどの問題がありました。そこで、こうした問題によって相続をめぐる紛

争が生じることを防止し、自筆証書遺言をより利用しやすくするため、法務局で自筆証書による遺言書を保管する制度が創設されました。

(4)被相続人の介護や看病に貢献した親族は金銭請求が可能に

相続人ではない親族（例えば子の配偶者など）が被相続人の介護や看病をするケースがありますが、改正前には、遺産の分配にあずかることはできず、不公平であるとの指摘がされていました。

今回の改正では、このような不公平を解消するために、相続人ではない親族も、無償で被相続人の介護や看病に貢献し、被相続人の財産の維持または増加について特別の寄与をした場合には、相続人に対し、金銭の請求をすることができるようにしました。

2. そのほかに改正された点は？

実情に合った様々な方策が盛り込まれました

今回の改正では、このほかにも、様々な方策が盛り込まれています。

配偶者短期居住権

配偶者短期居住権は、配偶者が相続開始時に被相続人が所有する建物に居住していた場合に、遺産の分割がされるまでの一定期間、その建物に無償で住み続けることができる権利です。

配偶者短期居住権は、被相続人の意思などに関係なく、相続開始時から発生し、原則として、遺産分割により自宅を誰が相続するかが確定した日（その日が相続開始時から6か月を経過する日より前に到来するときには、相続開始時から6か月を経過する日）まで、配偶者はその建物に住むことができます。

また、自宅が遺言により第三者に遺贈された場合や、配偶者が相続放棄をした場合には、その建物の所有者が権利の消滅の申入れをした日から6か月を経過する日まで、配偶者はその建物に住むことができます。

自宅の生前贈与が特別受益の対象外になる方策

結婚期間が20年以上の夫婦間で、配偶者に対して自宅の遺贈または贈与がされた場合には、原則として、遺産分割における計算上、遺産の先渡し（特別受益）がされたものとして取り扱う必要がないこととしました。

すなわち、改正前には、被相続人が生前、配偶者に対して自宅の贈与をした場合でも、その自宅は遺産の先渡しがされたものとして取り扱われ、配偶者が遺産分割において受け取ることができる財産の総額がその分減らされていました。そのため、被相続人が、自分の死後に配偶者が生活に困らないようにとの趣旨で生前贈与をしても、原則として配偶者が受け取る財産の総額は、結果的に生前贈与をしないときと変わりませんでした。

今回の改正により、自宅についての生前贈与を受けた場合には、配偶者は結果的により多くの相続財産を得て、生活を安定させることができるようになります。

遺産の分割前に被相続人名義の預貯金が一部払戻し可能に

改正前には、生活費や葬儀費用の支払、相続債務の弁済など、お金が必要になった場合でも、相続人は遺産分割が終了するまでは被相続人の預貯金の払戻しができないという問題がありました。そこで、このような相続人の資金需要に対応することができるよう、遺産分割前にも預貯金債権のうち一定額については、家庭裁判所の判断を経ずに金融機関で払戻しができるようにしました。

ふれあいトークサロン

第41回　令和2年10月28日（水）（参加者45名）　■銀座ブロッサム中央会館「マーガレット」にて開催

〈第41回〉地球はあと何年もつのだろうか？

ＮＰＯ法人海の森・山の森事務局　理事長　豊田直之

一昨年10月に、アフリカ大陸最高峰のキリマンジャロ（５８９５ｍ）を登頂。その山頂にある氷河を見てきました。８ｍほどの高さのある氷河のいたるところから大きなつららが下がり、氷河の下側の土は、水が流れた跡としてＶ字の深い溝となっていました。ほぼ６０００ｍの標高にあり、気温もきわめて低い環境にありながら、氷河は明らかに溶融していたのでした。

地元の登山ガイド・アベル氏の話では、「氷河は40年ぐらい前から溶け始めたようだが、ここ数年の溶け方のスピードはひどいものがある。しかし、俺たちにはどうすることもできないんだ。40年前にあった時からすると、もう4分の1しか残っていないこの氷河は、たぶんあと10年はもたないだろうな」ということでした。

この話を聞いた時には、私にとってもあくまでも他人事で、まさか私たち日本人の暮らしぶりが遠く離れたアフリカの氷河に影響しているとは微塵だに感じてはいませんでした。

タンザニアの人たちの暮らしぶりが原因？

この氷河溶融の原因は、どうやら現在全地球規模で問題になっている地球温暖化によるもののようです。気温の上昇によって溶融が始まり、その溶融スピードもかなり加速しているのが現状。

地球温暖化の原因となる温室効果ガス、その一つである二酸化炭素の排出について、キリマンジャロ下山後に取材してみました。

もし、キリマンジャロのあるタンザニアの人たちが、その暮らしぶりから二酸化炭素を大量に排出して、それが原因で地球温暖化を促進し、氷河が溶けているとしたら、それは自分たちの責任と言えるでしょう。

しかし、タンザニアの人たちの暮らしぶりを取材していくうちに、これはどう見てもここに原因があるようには思えませんでした。この国での産業は農業と放牧による酪農がメイン。しかもおそらく自分たちで自ら建てたと思われる実に質素な家での暮らし。電気は通じてはいるものの、街から外れれば、そこではランプを使っていました。クルマも走ってはいますが、東京に比べたら比較にならないほど台数も少なく、タンザニアの人たちの暮らしに原因があるようにはとても思えな

かったのです。

我が国・ニッポンが実は主犯格だった…

二酸化炭素の排出量、しらべてみると我が国ニッポンがなんと5位。中国とアメリカを筆頭に、上位の国がみな大国。大国なら人口も多いし、それに比例して排出量も増えることは容易に予想できます。ニッポンが世界で61位の国土面積、10位の人口であることを考えると、5位の位置付けは我が国が実は主犯格であることを暗示しています。

特に東日本大震災以降は、原発が止まって、火力発電所に頼りっぱなしになっている現実。火力発電による二酸化炭素の排出は極めて多く、極端な言い方をしてしまえば、キリマンジャロの氷河を溶かしているのは私たち日本人の責任でもあるのです。

日本国内での二酸化炭素排出は、発電によるエネルギー転換が第一位、鉄鋼業などの産業によるものが第二位、クルマの排気ガスなどの運輸によるものが第三位。これら3つが80％を超える原因となっています。特に一位の電力に関する部分は、世界各国からも指摘されているにもかかわらず、国を挙げての太陽光発電や風力発電といった本格的な自然再生エネルギー活用にシフトできていないのは、地球温暖化に対する政策として我が国の無責任な姿勢が浮き彫りとなっています。政府や自治体任せではなく、自分たちで何とかしないと、もう私たちの住む地球はもたないのではないでしょうか。

SDGsで最優先されるべきは気候変動への対策では？

ここ数年の台風は、地球温暖化による海水温の上昇により太平洋上で強大化。信じられないぐらいの中心気圧に発達しています。一昨年にも強大な勢力の15号、19号が関東を通過し、その傷痕も記憶に新しいのではないでしょうか。これまでたまたま進路が逸れたので甚大な被害は少ないのですが、今後、間違いなく烈風による建物の倒壊、河川の氾濫、道路や橋梁の崩壊など、いわゆる想定外の規模の被害が懸念されます。

気候変動によるインフラなどの被害甚大化は、私たちの平穏な生活を打ち砕くだけではなく、社会としても経済活動が完全に麻痺してしまいます。自然災害による大きな被害が頻繁に起これば、もう国として成り立たなくなることも考えられます。

SDGsの17個の達成目標は2015年に国連が私たちが末長く地球で暮らすために2030年まで達成すべきものをまとめたもの。あと残り9年で全てが達成されなければなりませんが、その中でも最も優先すべきは13番目の目標である「気候変動に具体的な対策を」ではないでしょうか？

まずは地球温暖化を推進してしまっている原因を取り除き、気候変動にブレーキをかけなければ地球が地球ではなくなってしまいま

■豊田 直之（とよだ なおゆき）

冒険写真家、NPO法人海の森･山の森事務局･理事長。1959年横浜生まれ。東京水産大学（現・東京海洋大学）卒。サラリーマン、漁師、編集者兼ライターをへて、写真家・中村征夫氏に師事。
1990年独立し、海の撮影プロダクション有限会社ティエムオフィス設立。同代表。国内はもとより、海外の海を撮影。1995年キヤノンカレンダー撮影を担当。2015年写真展「水の輪廻？広大なる海の行方を追い求めて？」で大いなる評価を得る。
2012年NPO法人海の森・山の森事務局を設立。写真のチカラを駆使し、里海、里川、里山の保全・再生に全力を注ぐ。

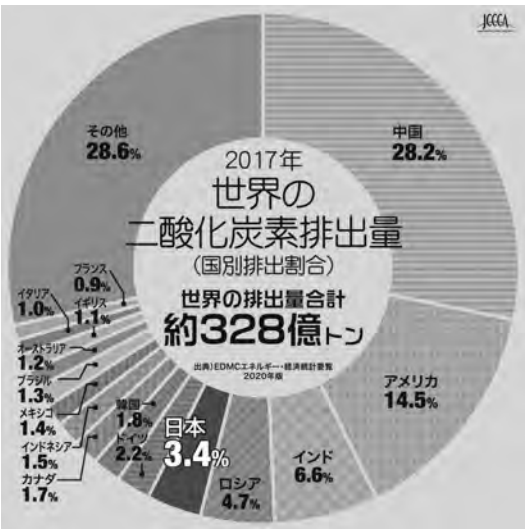
す。私たちのＮＰＯも、地球温暖化の主たる原因である現在の発電事情から脱却すべく、オフグリッド（電力供給を断ち、太陽光発電による電力の自給自足）化の工事を進めていて、２０２１年１月には完成する予定です。

地球はこれからも次世代、次々世代の人たちにタスキを渡していかなければなりません。そのためにも、私たち一人一人が今できることを実践して、気候変動の進行を少しでも止める。それは今やらなければならないと思います。

氷河が溶けきってしまえば、まずタンザニア周辺の国々の水事情が急激に悪化。また砂漠化することで大きな気候変動にもつながる。

タンザニアの主な産業は農業と放牧酪農。電気も通じているが、街から離れればランプ生活。地球温暖化とは程遠い暮らしぶり。

タンザニアの人たちの暮らしは実に質素。皆無というわけではないだろうが、環境に与えるストレスは極めて少ない暮らしぶり。



およそ190カ国から排出された二酸化炭素。その7割近くがニッポンを含むほんの十数カ国からの排出。
※出典EDMC／エネルギー・経済統計要覧2019年版

東日本大震災以降メイン電力供給源となっている火力発電を何か別の方法にシフトすべき。※出典温室効果ガスインベントリオフィス

公益社団法人日本産業退職者協会の新規社会貢献事業
～ＳＤＧｓを目指して～

事務局

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

ＳＤＧｓが地球を救う最強の指針

コロナ禍からいち早く抜け出し生き残るための世界共通認識のキーワードはＳＤＧｓの実践です。

地球環境の悪化、資源や食糧の不足、貧困などによる地域紛争の問題は年毎に深刻化してきています。

社会が壊滅的ダメージを受ける前に安定した社会が続くように、２０１５年に国連でＳＤＧｓが採択されました。具体的には17の目標とその実現に向けた１６９のターゲットを指しています。これは単なる理想論ではなく、２０３０年までに国連加盟１９３か国が達成すべき目標なのです。日本でも２０１６年5月に内閣総理大臣を本部長とし、ＳＤＧｓ推進本部を立ち上げました。

社会貢献事業としてＳＤＧｓを取り上げる理由

ポストコロナ社会で、ＳＤＧｓをテーマとして取り上げる動きが顕著になってきました。しかし、今のところ一部の大企業やＮＰＯ、ＮＧＯに限られておりまだまだ大きな流れになっているとまでは言えません。本格的な動きはこれからです。公益社団法人日本産業退職者協会もこの流れに沿って行動を起こすチャンスです。私達の組織で何ができるのか何をなすべきなのか皆さんと考えてみようではありませんか。

会員の多くは戦後の経済活動優先で豊かな生活を享受してきました。一方、私達は未来を担う子供たちにそして豊かな地球を守るために何を残してきたのでしょうか。大きな不安がよぎります。皆さんの多くは、きっと次の世代につながる社会貢献をしてみたいと考えているのではないでしょうか。ＳＤＧｓの中からその目標を選択して行動を起こしましょう。

これから劇的に変わる世の中に取り残されないように準備を急ぐ必要があります。何十年かに一度の大転換期になるのは間違いありません。コロナ禍でその流れが加速していきます。皆さんと一緒に新しい歴史をつくっていきたいと思います。

公益社団法人日本産業退職者協会が目指すＳＤＧｓ事業

Ⅰ　公益社団法人日本産業退職者協会のＳＤＧｓに該当する活動への支援

⑴対象活動

社会貢献、イベント、サークル、地域会、トークサロン等

⑵支援要件

法人会員や個人会員増強に貢献しうる魅力ある活動と認められるもの

⑶支援内容

人、物、資金などの要望内容をヒアリングして個別に対応

Ⅱ　ＳＤＧｓ協働活動支援事業の立ち上げ

⑴事業の概要

ＳＤＧｓの様々な課題に沿った事業を企業、ＮＰＯ法人、公益社団法人、ＮＧＯ等の諸団体と協働で行い、活動資金の一部を支援金として支給する。

⑵対象事業

①海の豊かさを守る

対象

・あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する事業（具体例としてマイクロプラスチック、ペットボトル等）

②陸の豊かさを守る

対象

・自然生息地の劣化を抑制し、生物多様性の損失を阻止する事業（具体例としてホタル

の復活、干潟の保全、豊かな水源の保護等）

(3)募集要項

①支援の要件

団体の組織及び運営等に関する会則、規約などを定めていること。

②支援の対象となる事業の要件

事業の選考基準は次の4項目。

(イ)実現性　(ロ)発展性　(ハ)独創性　(ニ)自立性

③支援の対象となる経費

(イ)対象事業に要する経費（報償費、旅費、消耗品費、燃料費、印刷製本費、通信運搬費、保険料、使用料、賃借料、原材料費）

(ロ)対象外経費（領収書、レシートがないもの。構成団体および構成員の所有する物品等の借用に対する謝礼・使用料、団体の運営経費、構成員のための食糧費）

④支援金の額及び支給回数

支援金の額は対象経費の3分の2を乗じた額（千円未満切り捨て）30万円を限度とする。

支援金の支給は一団体につき年1回とし、支給を受けられる回数は、同一の対象事業につき通算3回までとする。

⑤選考（詳細については公益社団法人日本産業退職者協会まで問い合わせください。）

(イ)1次選考（書類）

書類提出〆切期限：3月26日

(ロ)2次選考（面接）：4月第2週目

採択事業はホームページに掲載する。

プラキャップ
笑顔であふれる地球を目指して

燦福祉作業所　天成舎　**小川晴美**

貴法人にありましては、当施設の福祉活動及び、世界の子どもに対してのワクチン支援活動に温かいご理解の上、ペットボトルのキャップ回収及びご寄附を賜り当施設の運営に多大のご貢献を戴きました。よってここにそのご厚意に対し深く感謝の意を表します

24時間、地球のあちらこちらで、それぞれの立場で自分の役割を自覚し、喜び勇んで、自分の大切な人々の幸せを願い、悩み、そして行動していくことこそが、福祉に限らず、あらゆる職業の人、全ての人が持つべき人生の目的であると思います。

世界中の人が、その思いに立てた時、世界から戦争は無くなります。

私どもの福祉作業所では、ペットボトルのキャップを回収し、分別をして、JCV（世界の子どもにワクチンを日本委員会）を通して、世界の子どもたちへのワクチン支援を行っています。貴法人に同じく多くの皆様のご協力を頂きながら、年間約20万円のワクチン支援をしています。それは、ポリオワクチン1万人分に当たります。毎日、感染症で死んでいく子どもたちは、4千人と言われています。私たち一人ひとりは、小さなキャップ一つかも知れません。そんな私たちでも、皆で集まれば、大きな力となり、何万人もの子どもたちの命を救えるのです。

そればかりではありません。私たちの作業所では、年に1回、職員と所員の代表で、ミャンマーやラオスなど、現地まで、ユニセフと共にワクチン支援に入ります。

軍事政権下にあったり、因習の深い集落だったり、それは大変なことも多いのですが、我が作業所の所員たちは、どんな奥地の集落に行っても大歓迎を受けます。

所員が毎日働いて、その収益をワクチン支援に回していることを伝えると、村長さんは、所員の事を抱きかかえるようにして喜びと感謝の涙を流しながら、

「私の息子にも重い障がいがある子がいる。今までずっと恥ずかしい子だったけど、貴方たちが、来てくれたおかげで、今日からは、自慢の子になった。」

他民族を絶対家の中に入れない村長さんも、

「さあ、よくおいで下さいました。中にお入りください。私が作ったお酒です。お飲みください。」

障がいのある所員だからこそ出来る役割なのです。

その後の現地記者会見でも、記者のミャンマー語の質問にたいしても、通訳など必要ありませんでした。

日本では、障がい者でもみんな働けるのですか。「だーっ」

ミャンマーでも出来るでしょうか。

「ぶーっ」

所員の山田さんは、見事に返答し、なんと記者も納得の様子でした。

障がいのある所員だからこそ成し得る「平和の使者」としての役割なのです。

福祉は、誰かが誰かに与えるものではなく、障がいのある所員も含め、全ての人がお互いに自分の周りにいる大切な人の幸せを願い、支え励ましあって生きていくこと、そのものが福祉だと思います。

所員と私たち、そして何よりも、貴法人を始めとする多くの支援者の方々と共に「幸せ製造工場」のスタッフとして、たくさんの幸せを創りたいと思います。

貴法人及びスタッフの皆様方のご支援に衷心より厚く御礼申し上げます。皆様とともに、地球家族の一員として、地球というこの星を幸せと笑顔で満ちあふれる星にしたいと思います。

［催行概要］

目的：ご寄付がワクチンとして子どもたちに届いている現状を支援者様に実際に見ていただき支援者様との関係を強化すること。支援国の国土、自然、生活、経済の状況をワクチン接種時事情の背景として情報収集し、理解すること。

期間：2019 年 8 月 31 日（土）～ 9 月 8 日（日）

視察国：バヌアツ共和国

参加支援者：６名 NPO 法人キャップの貯金箱推進ネットワーク 湯川千春様
株式会社 Good Service 山村直秀様
燦 福祉作業所 天成舎 小川晴美 様、長島修次様
日本リユースシステム 株式会社 今野優子 様
NPO 法人 Re ライフスタイル 永井和美様

JCV 職員：３名奥寺憲穂（事務局長）
高橋昌裕（ドナーケアグループ）
清水大輔（広報・啓発・教育グループ）

現地協力：中村まさえ（JICA 青年海外協力隊隊員 看護師）
バヌアツ保健省 予防接種拡大計画課（EPI）

協力：UNICEF バヌアツ事務所

※日退協ではキャップ総重量 897kgポリオワクチン約 900 人分相当を集めています。

マチュリティ談話室

天空の遺跡マチュピチュ紀行

西東京会　塩山　哲郎

南米ペルーのマチュピチュ遺跡は、誰もが知っている人気の世界遺産であるが、南半球で季節も時間も日本とは真反対、あまりにも遠く、正直なところ行けるとは思っていなかった。チリのサンティアゴに駐在している次男から声掛けがあり、２０１９年12月、妻の念願でもあったマチュピチュ旅行が実現することになった。

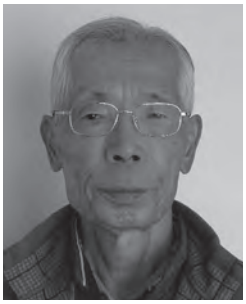
28時間の長旅を経てサンティアゴに到着、8ヶ月ぶりに孫娘達と再会した。2日間休養した後、妻と次男の3人でマチュピチュに向けチリを出発した。インカ帝国の首都クスコ（標高３４００ｍ）まで3時間半のフライトを経てオリャンタイタンボで前泊、翌日早朝、現地ガイド（ＮＨＫＢＳのマチュピチュ特番に出演）と合流してペルーレールで1時間半、マチュピチュ駅に到着した。マチュピチュ村は人口３０００人の小さな村で、初代村長は日本人の契約移民だった野内与吉氏と知り驚いた。マチュピチュ駅前からシャトルバスで、つづら折の山道を30分登り、9時マチュピチュ入口に到着した。大勢の観光客で溢れていたが、日本人は我々だけで欧米人が目立った。マチュピチュ遺跡は、１４５０年インカ帝国第９代皇帝パチャクティによって築かれた遺跡で、内部には神殿や住居など１９６の様々な施設があり、人口は５００～７５０人だったと言われている。標高２４００ｍの切り立った断崖の上に幅６００ｍにもわたって広がっており、１００年程前にアメリカの探検家ハイラム・ビンガムによって発見されたが、麓から見えないので４００年もの長い間発見されなかったといわれている。インカには文字が無かったので文献資料が無く、解明されない謎が数多く、世界7不思議の1つとされている。

入口から石の階段を15分位登ったところに見晴らし台があり、眼下に広がるマチュピチュの全景を一望した時の感動は未だに忘れられない。季節は雨季だったが、雨は一時的に降るくらいで雨脚は早い。遺跡の剃刀の刃も通さない見事な石組みには驚いたが、これはハンマーストーン（石鎚）で石の表面を削り滑らかに加工、まさに芸術

である。雲がかかったマチュピチュ山やワイナピチュ山に挟まれたマチュピチュはまさに天空の遺跡で、アンデネス（段々畑）の緑がきれいだった。神秘的な美しさだ。可愛いハチドリの鳴き声が耳に残っている。遺跡は域内の神殿エリア（太陽神殿、インティワタナ、３つの窓の神殿等）、中央広場を挟んで居住区と作業場（水鏡の間、コンドルの神殿、学校等）があり、域外は農場エリア、見張り小屋に大きく分かれている。元々太陽信仰により、山には霊が宿るとされていたこともあり、２つの山に挟まれ、より太陽に近い高い場所を選んだとも言われている。最も重要な神殿は太陽神殿で、太陽観測をしたといわれている。東の窓から朝7時頃に太陽の光が差し込むと中央の大きな石の上に綺麗な長方形の光が当たる。この現象になると農業を始める「冬至」と決めたようだ。インティワタナは遺跡の最も高い場所にあり1枚岩を削って出来ており、ケチュア語で「太陽をつなぎ止める」と言う意味がある。宗教的かつ天体観測の道具であり、太陽の光に照らされて映し出される影で暦を作ったらしい。午前中は現地ガイドの案内で見学、ランチ後、午後は親子3人でマチュピチュ遺跡をたっぷりと堪能した。当日はマチュピチュ村に宿泊、ディナーのペルー料理はとても美味しく、初めて口にしたアルパカの肉は格別だった。最後に旅行のプランニングからアレンジメント、そしてスペイン語の通訳もしてくれた次男に感謝。

「地球一周ウオーキング」

神奈川会　木村　一雄



昨年8月に11年かけて地球一周（約４０、０００キロ）ウオーキングを達成しました。一日平均とすれば約10キロを歩いたことになります。

動機は、友人との百名山達成を目指していましたが止むを得ず断念した時期に「ネット上での日本一周」ウオーキングの日経新聞を読んで始めました。万歩計にて歩数（一歩は70センチ）をＰＣ入力することで歩行距離が記録されます。当初は日本一周（約９０００キロ）完歩を目標に始め、概ね１０００日を要して達成しました。次いで2周、3周と続き11年かかり地球一周を達成できました。

このように長い年月を飽きもせずに続けてこられた要因は先ず歩くことが生活の一部になってきたことです。体調、天候等の条件が悪い時でも歩くことにより気分的に爽快感を生み出してくれるし、コース途中の木々、草花、遠景に見える山々等の風景を眺めては変化を見出すことで季節の進み具合に関心を持ちました。歩くコースは10種類以上用意して日替わりを心がけて変化を持たせ、また月数回はハイキング、野外イベント、ゴルフ等へ出かけていました。

日々継続することでこれまでに解らなかった新たな現象（例えばソメイヨシノでも木々によって開花時期にかなりのずれがあるとか富士山の雪化粧する高さの進み具合等）を見ることができ、またそうした変化を発見することが楽しみになりました。

記録や所感などをメモすることも継続の一助になりました。具体的には月単位の記録とともに天候、体調、所感等を翌月の初めにＰＣに入力して次月への挑戦意欲を生み出す力になっていました。

成果についてはいろいろとありましたが何よりも日々のウオーキングの積み重ねが規則的な生活となり健康維持につながり長い年月を継続できたことと思います。

イケメン会

広島支部　下江　英昭

15年以上参加している懇親会がある。定年後、同じ会社で働いた者同士が月1回集まり、健康状態、好きな広島カープの戦いぶり、最近のニュース等を話題にしながら懇談する約2時間の飲み会である。当初は4人で始まったが増減の後現在は9人になっている。全国を転勤し終の住処を広島に定めた平均年齢78歳の会で、関東、関西出身者や日退協会員も在籍する。会社時代の話が共通の話題となり、ゴルフ、ボーリング、山歩き、囲碁等趣味の話も飛び交い毎回あっという間の2時間で二次会に流れることも茶飯事となっている。

会の名前は「イケメン会」。当初は、出席者が高齢になってくることから互いの健康を確認するための会として「生存確認会」と名付けた。その後、会員の中からこの名前は暗すぎる、メンバーに沿った明るい名にしようとの提案があり、全員が「生けるメンズ」であることから「イケメン会」に変更した。「イケメン」は本来「魅力的な人、特に面貌が魅力的な人」を指すようだが、若いころは面貌に自信があった会員も今は面貌より、「生き方」や「心意気」に魅力を発揮している人が多い。「イケメン会」になったころは面映ゆい気持ちもあったが現在は全員がこの名前に慣れイケメンを自認している。家族は似合わないと笑うが男は年を取ればイケメンは顔だけではない、心だ、生き方だと気にしていない。

コロナ禍はイケメン会にも影響を与えた。1年前までは欠席者は殆どなく定例開催をしていたが感染拡大が始まった昨春頃から休止が多くなっている。会員からは早期の再開を望む声が出ているが現状の感染状況では儘ならない。

同じ会社で働いた先輩、後輩の集まりであるイケメン会は、気心の知れた気の置けない者同士の癒しの会であり楽しみな会である。早いコロナ終息を願っている。

「古稀」を迎えて思うこと

京葉会　長嶋　良一

「人生七十古来稀」唐の詩人・杜甫の一節ですが現在の長寿社会においては人生百年の方が相応しいかも。私は数え年では既に古稀を過ぎましたが満七十歳を迎え、これまでの人生を振り返ってみることも必要かと思います。成人して半世紀、そのうち会社生活を三十四年間過ごし、多くの経験・友人を得ることができました。その後のクールダウンの期間を経て当協会には元会社の同僚の勧めで入会し早6年が経ちました。協会の強みは理事長の挨拶にもありますように異なる業種、様々な経験をもった多くの会員が親しく集い社会貢献という同じ目的を持って行動していくことにあります。私も地域会、委員会活動等で貴重な経験をしながら協会活動に尽力していきたいと思います。

今年（２０２０年）は社会全体が新型コロナ感染の影響で歴史的な一年でした。特に4月以降の半年はほとんどの経済活動、社会生活がストップし未曽有の日々を送りました。老若男女がこれまでの日常では考えられない特別な時間を体験したことでしょう。この体験を未来に活かすことが重要です。ポストコロナの時代を考えますと２０３０年の世界のかたちを考え行動する『ＳＤＧｓ』の活動がまさに大切になると思われます。

コロナ感染が経済社会に与えたダメージは計り知れませんが、皮肉にも大気汚染や海の環境が改善されたことも事実です。人と人の関係や会議・仕事の進め方、会合の在り方が変わるキッカケとなることが期待されます。

これからの十年、今までとは違う新しいセカンドライフをより充実したものとしていくため会員の皆様と共にボランティア活動に力を入れていきたいと考える今日この頃です。

生き甲斐問答

広島支部　平石　純一

「楽しみは何？」と聞く人に、「趣味を楽しむ」と返す。多趣味だと人に言われる。

釣りは、小鮒釣りから始め、今は船釣り、渓流釣りや鮎釣りに忙しい。コロナ禍で船釣りは自重している。4月の山女魚（当地ではアマゴと呼ぶ）釣りや夏の風物詩である鮎の友釣りは、3密にはならないだろうと思う。今から夏が待ち遠しくて、2月には友釣りの仕掛けを作り始める。

登山は、中学生の頃に友人たちと水晶取りに裏山へ登ったのが原点である。学生時代の六甲山通い、また、社会人になって、12月富士山での雪上訓練、正月は南アルプス塩見岳の合宿や2月八ヶ岳阿弥陀岳南陵登攀は、懐かしい思い出である。現在は、日退協〝山を歩く会〟に所属して、近郊の山歩きを楽しんでいる。

ゴルフは、30歳で始めた。熱心にゴルフ場に通っても腕は上がらない。今も、優勝を夢見てゴルフコンペへの参加を楽しみにしている。

写真は、小学生の時お年玉としてもらったコンパクトカメラが、付き合いの始まりである。

高校生の時にはクラブ活動に熱中し、文化祭の前には学校の部室に泊まり込み、フイルム現像や引伸ばしをやった。

フイルム時代と比べ、デジタルカメラの進歩は、目を見張るものがある。光量不足であっても、きれいな写真が撮れる。色の表現も自在になった。面白い。写真には、撮影者の心の内が表れるという。平常心が大切だと自戒している。

趣味は、思い出話に花が咲き、今も楽しめる。趣味に没頭しているときは至福の時である。趣味を通じて、多くの方と貴重な交流ができた。健康に留意し、趣味を楽しみたいと思っている。

星の数と故里

埼玉会　星　洋一

平成元年1月に転勤で名古屋市千種区に移住しました。そして数か月後各戸に配布された新電話帳を見て、記載されている星の名字の加入者が私だけなのに驚きました。

それから数日後知らない人から電話がかかってきて「珍しいお名前ですが何処から来られたのですか」と聞かれ関東からと答えましたが、先方のお話の言外に外国からの帰化人ではと思ったようなニュアンスがありそんなに珍しい名字なのかなと驚きました。

それがきっかけで星の名字が見かけられる地域は何処かと同僚や友人に聞いたり関連資料で調べたりした限りでは関東と東北地域に限られ、中部地域から西の地域ではあまり見かけない名字でした。

今回この文を書くにあたり改めて調べてみると、令和2年の12月現在で全国の星の苗字の人数は約73、000人で、その85％の人が関東と東北地方在住で多い順に福島、東京、宮城他となっています。一番多い福島は16、700人でその70％の11、700人が会津地方に在住しています。会津の星の由来を調べると和歌山県牟婁郡星の里から移住したのがルーツといわれる家系が多いようです。帰化人ではありませんでした。

この会津地方にある会津若松市が私の生まれ故郷で、落ち着いた綺麗な素晴しい城下町で育ててもらいました。会津の主な産業は観光産業と農産業で、皆さんに親しまれている観光地に尾瀬沼や磐梯山や猪苗代湖等数々の地域があります。

その一つの猪苗代湖に最近問題が起き話題となっています。40年ほど前から湖のシンボルと言われ親しまれてきた150人乗りの遊覧船、船首が白鳥の形と亀の2隻がコロナ禍での観光客激減のため稼働できず売りに出され、売れなかったら解体されるそうです。ダイヤモンド婚記念で訪れた昭和天皇が乗船された船だそうです。今月、全国紙の一つの紙面に大きく掲載されていました。似たようなことが全国の各地で起こっていることと思います。

皆が迷惑しているコロナ禍が早く収まることを願っている毎日です。

ひとこと

「コロナを越えて」

●マスク作りで心豊かに

広島支部　池田依沙美

今迄当たり前に過ごしていたこの日常の有難さを痛感しています。何気なく流れている日々がこれ程豊かな人間らしい生活かを思い知らされました。人々との交流が閉ざされたことにより、日々支え合う心、交流が如何に大切かを学ばせて頂きました。人様の手助けとなればと思い、マスク作りをさせて頂き、それは私の心を豊かにして頂きました。私達は人と人が寄り添って歩むことに豊かな人生がある事を心から思う日々です。

●新型コロナを越えて

埼玉会　大野英明

新型コロナウイルスの感染対策が見えない中、如何お過ごしでしょうか。外出を控えるように連日テレビからの放映を目にしているところですが、このような中で私が始めた事の一つに書道（習字）があります。

以前勤務していた会社の書道部（書聲会・椎名先生指導）にいたことから、当時のお手本を持ち出し久しぶりに毛筆の感触を味わいました。もともと乱筆でしたから少しでもまともな字を書けたらと思ってご指導頂きました。近頃はパソコン等の機械文明の発達で文字を書く機会が少なくなりつつあります。

書道の世界は奥が深いものですから、これに接している時間は一人静かに自己の世界に入り込める貴重な時間となります。

墨汁と筆一本を買ってきて書道に取り組み、新型コロナを忘れる時間を作って、人生の楽しみが増えたとなれば、うれしいですね。

●コロナの後　広島支部　尾形雅美

コロナ後の楽しみと言えば、広島支部の写真を楽しむ会、ＰＣＤＣを楽しむ会、グラウンドゴルフを楽しむ会などの同好会参加です。他に公民館でのパン教室です。12月はシュトーレンの予定でしたが中止となり、パン屋さんでパネトーネを買いました。おいしかったけれど作りたかった。パン教室の半分は支部の方々です。1月もできるかどうか疑問ですが、日々楽しみながら第2リタイヤ迄ゆっくりとやっていきたいです。

●私の健康管理

広島支部　黒坂貞子

コロナに負けない為には、自分の健康管理が大事ではないかと思います。私は三〇年間スポーツジムに通っているので、それなりに健康を維持してきました。

コロナ感染防止のため自粛生活を強いられ、家におりましたが、ニュースで「水の中では感染しない」と聞き「しめた！」と思い、早速プールに出かけました。水を得た魚のように、以前にも増して自由に泳ぎ、日々元気に過ごし、コロナが寄ってこないように心掛けております。

●コロナとペット

西東京会　恒成憲一

かつて野良犬のように毎夜遊び歩いていた私は、コロナ以降は、散歩・三度の食事・3時の水分補給とおやつを定時に与えられる妻のペットの立場に陥落いたしました。

そこで妻の再評価「やっとお父さんの良さが分かった。体が小さいし毛がないから、家にいても邪魔にならないし犬のように毛も落ちない」。最近はこの生活に安住しております。

これからも妻（飼い主）に感謝しつつ、このコロナ禍を乗り切りたいと思っております。

●コロナなんかに負けないぞ

神奈川会　長澤　征次

年賀状に書きました「密を避け

一万歩目標に、生活圏内の散歩で楽しんでいます」と。

天気の良い日は朝食を済ませ散歩に出るのが日課となっています。道端の雑草や街の風景を眺めゆきかう人々の姿から移り行く季節を感じ、それを日誌に記録します。雑草類のカタバミ、スベリヒユ等の園芸種がカタカナ名で花屋の店さきで見られるのも楽しみです。適度の運動と好奇心で脳の活性化をはかりコロナに負けない生活のリズムを養っています。

●コロナを越えて

京葉会　平井勝子

改めて学びました。やれる時にやらないと何時出来なくなるか判らない。今日出来ることは明日にしない。自分を甘やかさない。実は一昨年夏に一週間で退院出来るほどの軽い脳梗塞を発症しました。それを機にすっかり健康に対して自信を失い、コロナで巣ごもり、手抜き生活の一途を辿り、正月は大人5人、子供5人が49㎡の我が家に集まるので密になるのは必定と、今年は独り正月を送る羽目に。寂しい限り。大反省。

同好会だより

江戸東京歴史散歩の会

七福神詣でについて

七福神とは、七つの神様を称していう言葉で、神仏習合からなる日本的な信仰対象です。参考までに七つの神様の出身地・国籍は、大黒天、毘沙門天、弁財天と天の付く神様はインド。布袋、福禄寿、寿老人は中国。日本は恵比寿の一つだけです。

令和3年1月7日に開催を予定していた荏原七福神巡りが、コロナの影響で残念ながら中止となりました。

ちょうど江戸東京歴史散歩の会が平成12年に発足して今年で20年の節目を迎えました。その間新春恒例の七福神巡りを20回開催しています。今回は過去の七福神巡りの歩みを振り返ってみることにしました。

第一回の谷中七福神巡り（参加者46名）が平成13年1月から始まり、山手七福神（51名）、千寿七福神（73名）、池上七福神（65名）、日本橋七福神（86名）、隅田川七福神（66名）、港七福神（74名）、柴又七福神（62名）、深川七福神（60名）、谷中七福神（70名）、山手七福神（64名）、浅草七福神（65名）、池上七福神（56名）、隅田川七福神（40名）、下谷七福神（51名）、東海七福神（43名）、雑司ヶ谷七福神（44名）、小石川七福神（39名）、亀戸七福神（45名）、令和2年1月に日本橋七福神（38名）と続いています。

一番多い参加の時は86名を数えていますが、道中列が長くなって全員に目が行き届いたのか不思議でなりません。また人気のあるコースは2回開催しています。谷中七福神、山手七福神、池上七福神、隅田川七福神、日本橋七福神の5か所です。これにより都内では目ぼしいコースはすべて廻っていることにより、今後は都内以外に広げるか、人気コースを再度廻

平成27年1月7日開催の下谷七福神詣で

るかに絞られてきました。

七福神巡りは歴史も長く、会の看板行事です。毎年楽しみにしている会員の方が沢山いますので、どなたでも散歩感覚で気楽に参加できるように、これからも創意工夫を凝らした企画を考えていきたいと思います。

（佐久間征二）

神奈川　昼カラオケ会

神奈川会主催の昼カラオケ会は平成23年8月にワーキンググループメンバーの親善のため発足しました。当初は少人数の参加者でしたが徐々に参加者が増え、また神奈川会ホームページ閲覧により日退協会員以外の参加者もありました。

数年前には活動が神奈川新聞に掲載され、記事を読んだ方の参加もあり現在参加者は常時30名を超えています。会場は新横浜駅近くのカラオケ店「コートダジュール新横浜」で毎月開催しています。昼食、ビール、ソフトドリンクつき3～4時間でリーズナブルな会費で実施していますので、女性の参加者も多く賑やかで楽しい会になっています。

毎回30名を超える参加者を数えるようになり、全員が集まる部屋や少人数（3～4名）でたくさん歌える部屋の確保が難しくなったため、2年まえより月2回に分け第1、第3木曜日の午後1時より開催しています。

カラオケ会風景

設立記念月の9月と12月のクリスマスには盛大なパーティーを企画、のど自慢、デュエット大会など会員相互の親睦を図り非常に和やかな楽しい会となっています。

しかしながら新型コロナウイルス拡散拡大により、2020年3月より現在まで約1年ちかく活動を中止せざるを得なくなっています。5人以上の飲食、カラオケ等の自粛要請が出されていますが感染は拡大する一方で、収束は未だ見通せない状況です。

幹事一同再開の時期を模索していますが、当面不可能と判断しています。コロナウイルスの感染の終息、昼カラオケ会の再開を祈り皆様今しばらく我慢して頂き、再開しましたら以前のように楽しい会にしますのでご期待ください。

（石川義明）

詩吟会

百年に一度の国難、新型コロナウイルス蔓延の異常事態が続くさなか、詩吟会も三月から約半年間活動は休止せざるを得ませんでした。

年初の「初吟会」がせめてものイベントでありました。休止期間中に有志の仲間と、より安全な会場探しと活動の形態について何度か勉強会や会場視察を行いました。

オンラインによるリモート詩吟会も試行してみましたが、薄氷を踏む思いで現状の維持を選択しました。

月1回の通常練習会は、この9月から慎重に再開をしました。現状考え得るベストな会場を確保できたことが収穫でした。幸い東京都の施設で〝3密〟を最大限抑制できるスタジオの借用ができ、アクセス・時間短縮・感染防止対策等の徹底を含めて極力弾力的に実践しています。

外部の吟詠大会やコンクールなども全て現在休止中のなか、詩吟熱が冷めないように、指導の是道

先生のご配慮で令和3年度の課題吟14吟の模範吟と伴奏用CDを作成いただき、全員に配布、各自がステイホームで自習できる環境も整えました。

課題吟は、例えば、①春日山懐古（大槻盤渓）、②秋裏の歌（李白）、③富嶽（乃木希典）、④菊花（白居易）、⑤弘道館に梅花を賞す（徳川景山）などいずれも厳選された名詩、詩吟ばかりです。

その他、別途〝おさらい会〟として埼玉県郊外の自治体施設のスタジオを借用して上記都心での練習会に参加できない人や個人レッスンを主体に練習会のサポート用の機会を設けました（月1回程度自由参加）。

わが詩吟会の構成は詩吟歴初心者ばかりですが、創立8年目にして準師範1名のほかほとんどが中伝クラスと、成熟しつつあります。詩吟を愛する熱意を維持すべく、コロナ禍の早期収束を願うばかりであります。関心のある方はぜひご連絡ください。

（芝山　茂）

竹とんぼ同好会

竹とんぼ同好会はなぜ続いているのか？

「はやぶさ2はリュウグウを離れ12月初頭には地球に帰還します。ワクワクするドラマを見ているようです。本日のテーマはそれ以上に興奮する題材です。」

富川世話役の口上で始まる竹とんぼ同好会。

２０２０年1月15日の課題は「初詣」、鳥居の前に並ぶどんぐりの初詣客。誓いの立て札には「大酒遠慮」、願いの立て札には「ぴんころり」と墨痕鮮やかに記されています。

はやぶさ2が打ち上げられた２０１４年12月の作品は羽根の長さ3㎝ほどの指で飛ばす竹とんぼ。軸は竹製の爪楊枝をより細く仕上げたもの。ストローに差込み親指と人差し指で勢いよく捻り発射します。はやぶさ2に例えればサンプル採集竹とんぼです。プロジェクトに協力した多くの中小企業の手作りにも似た小さな部品に匹敵します。

同好会参加者の多くは「もはや戦後ではないと謳われた経済白書」を読み、間もなく大量のプラスチックを使用する生活スタイルに馴染み、高度成長・大量生産・大量消費時代を懸命に生き、国家を牽引してきたとの自負をお持ちです。今や世界的に地球の限界は何時かを問う時代となり「ＳＤＧｓ」（持続可能な開発目標）を掲げて叫んでいます。このような時代が来ることを見抜いていた方もいたと聞きますが、その奔流には棹もさせなかったでしょう。隣近所でお互いに面倒を見ながら多くの子供たちを育てた昭和の時代と比べ、

初詣

2014年12月の課題

疫病退散神社

如何に隣同士、地域での共助の精神が無くなっているか。核家族化が進みマイホームを持つことが人生の目的と化し、自分たちは頑張っていくから他の面倒を見る余裕がない。おにぎりやお椀の温かい味噌汁をちゃぶ台に並べた時代と大きく変わってしまいました。竹とんぼ教室を開き、お子さんが椅子に座る間もなくスマホをいじくり始める母親のいかに多いことか！　時には憤りを覚えます。

10年ほど前、認知症予防活動に竹とんぼや手作り工作で一役を担って欲しいとの相談を受けるのと並行し、竹とんぼ同好会というアンチエイジング活動が自然発生的に始まりました。江戸時代のカラクリを手本とし、使わなくなった孫のおもちゃの部品を再使用した物など10年の積み重ねは大きく約60種類を超えます。参加された皆さんは飽きもせず脱落者なしで今日に至ったことに驚きます。戦後の復興期から高度成長期を企業戦士として戦い抜いてきた後期高齢者の皆さんが、工業製品ではない手作りの面白さを再認識し、楽しいからこそ続けてこられたと思います。

日本人は味噌汁のお椀を手に持ち香ばしさを、その温もりを、そして手頃な大きさと肌触りを両手で楽しみます。道具を創り、その道具でお椀を作る。この日本人に当たり前であった生活様式に戻り余暇を楽しむ。工作人間や耕作人間の手と頭を使う趣味に一瞬でも没頭できる面白さがあるからだと思います。

コロナに翻弄された一年、リュウグウから持ち帰った玉手箱から「コロナワクチン」が飛び出すことを祈り、再会を信じ次回の課題を試作しました。同じ初詣でも「疫病退散」のお賽銭箱付き神社模型です。一日も早い終息を願いメンバー間でリモート祈願を行いました。

竹とんぼ同好会は「暇と時間を喰う手作りの場、人の温かみを肌で感じる場」です。自由にご参加ください。

（末松孝一）

男声合唱クラブ

男声合唱クラブの本年の活動報告

男声合唱クラブ「フェローチェ」は、本誌前回号でも申し上げましたとおり２０２０年の演奏会は、５回参加の予定が結局11月15日の「小平市合唱祭」１回のみに終わりました。しかもこの演奏会は毎年14団体ほどが参加しますが、今年はコロナ禍により６団体。しかも参加団体でも各団内で賛否両論ある中、おそらく割合として賛成51／反対49ぐらいの僅差でかろうじて参加を決めたのでしょう。しかも「反対」の方も心の中では反対51／賛成49ぐらいでの葛藤があったのでしょう。…そうした中、我が「フェローチェ」は団としては参加。個人的には団員20名中、不参加４名で、コロナ感染心配を理由とした者は０。しかし逆に参加16名中コロナ感染を大なり小なり危惧した末に参加を決断した者は多数。

何やらややっこしいことを申し上げましたが、とにかく開催決定に至るまで紆余曲折。そして考えられるコロナ感染対策を全て行い、漸く開催に漕ぎつけました。結果はお客様約３００名。各団演奏の持ち時間20分前後。フェローチェが歌った曲は「ふるさと（室生犀星詩）」「狩人の合唱（ウェーバーの歌曲より　ドイツ語）」「アメイジング グレース（英語）」「喝采（ちあきなおみ）」「時代（中島みゆき）」の５曲。…困難を克服し、好きな歌が歌えて「思いっきり歌えた。本当に楽しかった。免疫力がアップした。人生前向きになった。生きる力が蘇った。」などと言う団員の声が全てを物語っています。

そして演奏会から２週間が過ぎ、感染者情報無し。

今、２０２１年に予定している演奏会に向けて楽しく、希望を持って練習しています。いつもとは違う演奏会の中、困難を乗り越

えて目的を達成した平均年齢72才の面々。かつては企業戦士だった（でしょう⁉）面々の素直な喜び。この源が歌であり、仲間であり、困難の克服です。まだコロナ感染は収まりませんが、少なくとも昨年11月の演奏会を糧に、前向きに人生を歩んで行きたいと思っている面々です。

（日向直規）

築地海鮮丼川柳会

令和二年の活動は新型コロナウィルスの影響により異例のものになった。

通常、協会会議室において、毎月第二土曜日午後、行っていた月例句会は、令和二年二月分までで三月及び四月の月例句会は、休会となってしまった。

そこで、五月からは投句句会に切り替えることとした。毎月、講師の津田暹全日本川柳協会理事から世話役（稲葉あさじ）宛てに、課題が送られてきて、世話役から会員に周知される。それに基づき、会員は三句を作句して世話役に送る。世話役が全員の句をまとめて講師に送る。講師に送られた句を選句して、三才（天、地、人）五客（五句）佳作（十句）を選び、翌月の課題と共に世話役に送る。（毎月この繰り返し）

十二月の課題「今年のニュースから」の会員句

長さだけ日本最高安倍総理　あさじ
栄冠も歓呼も消した甲子園　一星
はやぶさ2快挙で今年締めくくる　和子
権力欲がみっともなきを横に置く　弘純
藤十郎黄泉への道は江戸の空　瑞男
延期でも選手魂手は抜かず　むべ

この月に投句欠席した会員の近作

敗戦の葉月の記憶呆けられず　南穂子
我が家でも自己責任で放っとかれ　弘

コロナが終息しない間は、投句句会形式で月例会を続けることも止む無しと思われるが、我々会員としては一日も早く、協会会議室において、毎月第二土曜日午後、講師も含め、会員が相対して、講師の批評、会員相互の意見交換など活発に行いたいと念願している。

（稲葉あさじ）

歴史を考える会

本年度の活動はコロナ禍の影響により二月以降の集合会議は開催できず、Eメール交換による討議及びZOOMミーティング方式で行うことになりました。紙幅の関係で以下概略のみ報告いたします。内容は「東アジア三國史（日本・中国・朝鮮）」田中俊明監修・日本実業出版社をテキストとして使用しました。

《二月分》報告担当・高川　博

第一章・中国初の統一国家誕生

夏王朝実在の可能性、戦国七雄「燕」の重要性、秦代の徐福伝説、鉄と米の伝来ルートなど。

《三～四月分》報告者・恒成憲一

第二章・朝鮮半島に勢力を伸ばす漢

始皇帝の死と前漢建国、漢の武帝の中央集権化と版図拡大、遼東の公孫氏と半島南部の小国乱立、「漢委奴國王」金印の文字解釈など。

《五～六月》報告者・大島道雄

第三章・乱世の中国と朝鮮、ヤマト

混乱の時代に日本列島において統一国家出現、倭国の外交感覚、卑弥呼政権と公孫政権、古墳造営の経済的背景、奈良盆地の地形と農業生産性、朝鮮半島からの鉄入手、など。

《七月、九月》報告者・大友　彰

第四章・唐の隆盛と高句麗の滅亡、日本国号

聖徳太子の実在性、渤海の興亡と日本、遣隋使派遣、乙巳の乱から白村江の戦いへ、隋の裴世清の通交ルート、遣唐使船の航路など。

《十一～十二月》報告者・尾利出収

第五章・宋と異民族国家の争い、高句麗の誕生。華北の五代十国時代、契丹（遼）の建国

金（女真・靺鞨族）の建国、日宋交易、科挙制度、中国大陸の人口推移など。

（高川　博）

首都圏だより

神奈川会

■第66回イベント

「川崎市立日本民家園」と「岡本太郎美術館」の見学

（11月27日　参加者21名）

曇雨マークがとれなかった当日、幸運にも曇晴となり、寒さ警報も当たりませんでした。10時半に小田急向ヶ丘遊園駅に全員が集合、密を避けるため三々五々徒歩15分の民家園に向かいました。人も疎らなビジターセンターで会長挨拶と幹事の説明を受けました。

「**日本民家園**」は江戸時代の古民家を文化財保護の観点から日本各地から移築・展示しているもので、その25棟は全て国・県・市のいずれかの重要文化財に指定されています。コロナの影響でボランティアガイドが中止になったことによる理解不足を展示室での説明、音声アプリガイド、幹事が作成した「栞」の配布等でカバーしました。特に4棟の合掌造りは圧巻で、ここで記念写真を撮り、その一棟で営業していた「そばや」で昼食、午後からは長い坂があるので二班に分かれて美術館に向かいました。

「日本民家園」にて

「**岡本太郎美術館**」は平日のためか見学者が少なくゆっくり鑑賞できました。原色をふんだんに使った生命力溢れる絵や彫刻には、コロナで沈潜した気持ちを奮い立たせる力を感じました。

2時半に現地で解散。恒例の二次会の設営もなく、皆さん静かに帰路につかれました。今回イベントの各施設は生田緑地に囲まれた最高の環境の中にあり、林立するメタセコイアの黄色、モミジの赤、そして常緑樹の緑が織りなす「錦」の模様には心も和み、「ひと時でもコロナを忘れられて良かった」との声も聞かれました。

（中井順一）

京葉会

■第35回　京葉会

「迎賓館赤坂離宮」参観

日　時：令和2年11月20日（金）

参加者：32名（男性16名、女性16名）

いまひとつはっきりしない空模様のもと、昼過ぎからJR四ッ谷駅前にイベント参加者が集まり始めた。ご夫婦での参加が多い。今回のイベントは、事前に、迎賓館参観に応募し参観証を入手して約30名で実施したもの。駅を出て南に歩くと、壮麗な門と広い庭が見える。

迎賓館赤坂離宮は、江戸時代には紀州徳川家の江戸中屋敷の敷地だった所。敷地面積は、約12万平方メートル、延床面積は、約1万5000平方メートルで、この広大な土地の一角に明治42（1909）年、皇太子の住まいとして東宮御所が建設された。戦後、日本と国際社会の関係が活発になる中、外国から賓客をお迎えする事が多くなり、さまざまな改修を施し、昭和49年に現在の迎賓館として新たな歩みを始めた。また、創建から100年を迎えた平成21（2009）年には、本館、正門、噴水などが明治期以降の建物で初めて国宝に指定された。

入場口の西門で、用紙に名前を書き、手荷物検査と身体検査を受けて、まず、和風別館「游心亭」

に向かう。ここは専門のガイドさんが案内してくれるガイドツアーになっている。

和風別館「游心亭」は、庭園や照明、調度品にいたるさまざま部分で巧みに和モダンが表現されている。47畳の主和室では海外からの賓客を伝統的な和食でおもてなし。また、池に差し込んだ太陽の光が反射して、天井や柱に水のゆらぎが映し出される。即席料理室はより親密な食事の場として、茶室は茶の湯文化を身近に感じられる場として使われている。

和風別館の見学後、本館を右手に、主庭を左手に見ながら西の玄関に向い、そこから本館内に入り階段で2階に上がった。

最初は「彩鸞の間」。ここは、主に来客が案内される控えの間として、また総理大臣による外国元首との首脳会談や条約調印などに使われている。広さは160㎡。部屋の左右にはフランス産大理石を使った暖炉があり、それぞれのマントルピースと大鏡の上に、両脇に翼を広げた金色に輝く鳥のレリーフがある。これは古代中国の想像上の鳥である鸞（らん）で最高位の鳳凰につぐ鳥とされる。これが部屋の名前の由来にもなっている。

次は「花鳥の間」。「饗宴の間」とも呼ばれ、晩餐会の会場として使用されており、木曽産のシオジ材で板張りされた内装は、落ち着きのある心地よさを感じさせる。部屋の名前の由来は、天井に描かれた油絵や壁に飾られた七宝焼きが、花や鳥を題材にしていることからつけられた。広さは330㎡。

そして「玄関ホール・大ホール」。海外からの賓客を最初に迎える玄関ホールは、黒と白の市松模様の床に目にも鮮やかな真紅の絨毯が印象的だ。絨毯は、中央階段から2階の大ホールへと続く。大ホールでは8本のコリント式大円柱が壮観。

そのままっすぐ進むと「朝日の間」がある。賓客のサロン（客間、応接室）として使用され、要人の表敬訪問や首脳会談が行われる最も格式の高い部屋。広さは200㎡。天井には朝日を背に左手に月桂樹の枝を、右手に手綱を握り、四頭だての白馬のチャリオット（香車）に乗り天空を駆けている女神オーロラの絵画がある。部屋の名前の由来になっている。

最後は「羽衣の間」。迎賓館の西側に位置し、現在は、雨天時の歓迎式典などのレセプションに用いられ、かつては舞踏室だっただけに壁には楽器や楽譜のレリーフが多い。名前は、日本の謡曲「羽衣」を描いた絵画が天井に描かれていることに由来している。また、この部屋は、クリスタルガラスを主体に約7000個のパーツを組み合わせた当館において最も大きく最も豪華なシャンデリア3基を備えている。広さは330㎡。

本館の見学を終え、外に出て裏側にまわると、「主庭」が広がっている。中央には大噴水があり、多くの参観者が噴水越しに本館の写真を撮っている。ここは、絶好の撮影スポットになっている。

見学を終えた皆さんが三々五々、迎賓館正面の広々とした前庭に集まり始め、移動販売のお店でソフトクリームやコーヒーをいただき、皆さんが揃ったところで、カメラに収まりきらないほどの左右の本館の外観をバックに記念撮影。上手く撮れたかな？　心配していた天気も回復し、豪華絢爛たる迎賓館に圧倒された一日となりました。

（大友　彰）

「迎賓館赤坂離宮」にて

埼玉会

秩父札所巡りに参加して

楽しかった！　コロナ禍での閉じこもり生活の中でのイベント。倦み（う）し心も身体も甦（よみがえ）りました。

11月18日、快晴に恵まれた札所巡り。札所23番音楽堂へは駅からのバスを降りて坂道と階段上がると目の前正面に。しみじみとした佇（たたず）まいは室町時代建立とか。振り返れば秩父盆地の街並みが眼下に広がり、その向こうには武甲山を中心とした山並みが一望でき、なんだか懐かしい原風景に出会えました。

ここで昼食をとり、次の札所24番法泉寺へ。ここからは細い巡礼道へ入り雑木林の中。足元は落ち葉の堆（たい）積（せき）でフカフカ。上り下りしながら、小川を渡り、右左に紅葉も観ながらの、ややきつい一時間あまりの歩行を楽しみました。

膝を少し心配しながらの参加でしたが皆さんと無事に歩き通せて、心地良い汗をかき、満足感・充実感を味わえました。

最後に「酒つくりの森」に立ち寄り見学と、お土産を手にして帰路につきました。大変楽しかったひと時でした。

（三野晶代）

「法泉寺」にて

西東京会

■第48回イベント「昭和記念公園の紅葉狩り」

（11月20日　参加者11名）

コロナ禍での開催で予定していた「南極・北極科学館」の見学が中止となり参加者が少なく残念でした。昭和記念公園は昭和天皇御在位50年を記念して昭和58年に米軍基地跡に作られた国営公園です。現在は165ha余（東京ドーム約35個分）の広さだそうです。青梅線西立川駅に13時に集合、西立川ゲートから入場して、園内は自由行動、15時に立川口に集合としました。三々五々散策を始めました。

何しろ広いので地図を片手に、紅葉がきれいなところ、銀杏のきれいなところを散策しながら、途中で休憩おやつタイム。次第に健脚組とそれ以外組に分かれてしまい、それ以外組はパークトレイン（園内の移動に便利な乗り物　有料）に乗って車窓の景色を楽しみました。晴天で空の青と銀杏の黄色、落ち葉の絨毯にはとても癒されました。予定通り15時に集合解散となりました。コロナ禍で懇親会は予定されていませんでしたが、収まらない面々は「ちょい飲み」を楽しみました。

（遠間ひで子）

「昭和記念公園」にて

広島支部だより

「千年の時を超えて」

広島支部　岡本典男

秋　真っ盛りの好天の日、草花を愛する広島支部「園芸・盆栽同好会」のメンバー総勢二〇名は島根県益田市の「万葉公園、柿本人麻呂神社、雪舟庭園」を貸切りバスで訪ね、自然観察・文化・歴史の探訪を満喫した。元号「令和」に因んで万葉公園に出掛け万葉歌人の心情に触れ、併せて万葉植物の自然観察を勤しむと云うロマン満載の企画であった。「小春日和」と云う言葉がぴったりの陽光麗らかな至福の一日旅だった。

道中　車窓より見える色艶やかな紅葉の姿に一同感動、感激。心躍らせながら、一路　石見の国　益田市に向った。往路車中代表世話人より今回の企画ポイント及び万葉集と万葉植物の関わり等のレジメを交えた説明を受け、ますます期待を膨らませた。万葉集には数え切れない程の非常に多くの植物が詠み込まれており、喜び・悲しみ・出会い・別れ・愛・恋などの心情は現代の今も我々の心にも沁み込んで来るものであるが、その植物は観賞の目的のみならず、染料、衣料、薬剤、木材、食材等で日頃の実生活に密着していた植物で多岐にわたって詠まれているという説明は意外で印象深い感じを覚えた。

雄大な日本海、山河を望む事の出来る広大な万葉公園で歌碑を巡りながらの散策は、万葉歌人に想いを馳せ、自然の恵みを感じ、極上の贅沢な時間であった。植物園では車中で事前学習した知識に加え、公園のガイド説明のお陰でより多く、深く、具体的に万葉時代の風土、風習、文化を味わう事が出来た。そして、当地出身の宮廷歌人・柿本人麻呂を祀っている近隣の高津柿本神社を訪ね厳粛で雅な気分に浸り万葉歌人の功績を偲んだ。又、帰路途中　臨済宗医光寺にも立ち寄り雪舟が造園したと云われる池泉回遊式庭園を拝観し非日常的な詩情溢れる旅を楽しんだ。

白秋の黄昏時　天地人の沢山の恵みに感謝し、石見の爽やかな風を感じながら広島への帰路に就いた。コロナ禍で永らく様々なイベント、行事の開催を中止していたが、久し振りのバスツアーによって穏やかで、心豊かなご褒美の想い出がまた一つ増えた。

一日も早いコロナウイルスの収束を心より祈るばかりの旅路であった。

初春の令月にして
　気淑く風和ぐ
梅は鏡前の粉を披き
　蘭は珮後の香を薫らす

公益社団法人 日本産業退職者協会 役員名簿

（2021年1月20日現在）

役員

会長　西浦三郎
副会長　畠山忠昭
理事長　吉川敏孝
専務理事　佐久間征二
専務理事　石井憲
専務理事　塩山哲郎
常任理事　猪狩光也
常任理事　井上国春
常任理事　倉片厚子
常任理事（広島支部長）　谷口博
常任理事　山田雅彦
常任理事　伊藤春江
常任理事　遠間ひで子
常任理事事務局長　西村康治
理事　石川義明
理事　菊池正美
理事　木村一雄
理事　長嶋良一
理事　大友彰
理事　出射義幸
理事　末松孝一
理事　松崎敏夫
監事　長谷川芳春
監事　倉片隆

顧問・参与

顧問　榎本郁夫　梶田省三　関根貞夫　高島進一　田林巌樹　牧康司　山鹿素雄　山本恵朗　湯藤哲　安藤隆夫　糸数冨美江　岩渕芳夫　大里璋子　芝山茂　鈴木俊二　長澤征次　西納政光　西村修　日高三誠　福島龍郎　藤崎大四郎　満田将太　渡部俊一

参与　上神圭二

編集後記

本号の編集日程が厳しい中、ほぼ予定通りに発行することが出来ました。何かと慌ただしいところ、原稿をお寄せ頂きました皆さまに感謝申し上げます。

コロナ禍、集合形式の編集会議は中止となり、原稿の校正はメールでのやり取りとなったため、各自、見落としが無いように一字一句「丁寧に」を心掛けて行いました。事務局、編集委員の方々もいろいろと気疲れがあったことと思います。

令和三年を迎え、相変わらずコロナと共生しなければならない状況にありますが、本号の「ひとこと（コロナを越えて）」欄では、皆さまの知恵と工夫が凝縮されており、また、コロナ禍をものともせず？プラス思考で生活されていることに、何事にも動じない姿がうかがえ安堵感を覚えます。

一月七日に緊急事態宣言が再度出されて以来、ますます気が抜けない状況ですが、生活様式の変化もあって日常が窮屈になった反面、健康面では一人ひとりが今まで以上に気を遣うようになったことは確かです。

昨年、東京・渋谷に所用で出向いた折、明治通り沿いのビルの屋上に某企業の『まいったな　２０２０』というビルボード広告に出合いました。まさに多くの人たちの心境を捉えた納得させられるコピーでした。

今はまだ前途多難ではありますが、ワクチンに一縷の光を見出してコロナに打ち勝ち、東京五輪も成功裡に終わり、『やったね　２０２１』の年になることを願うばかりです。

（岸　伸和）

MATURITY・第一一二号
二〇二一年一月二〇日発行
発行人　吉川敏孝
編集人　岸　伸和
発行所　公益社団法人　日本産業退職者協会
〒104-0032　東京都中央区八丁堀3-17-13　TMYビル10階
電話　〇三（六二四〇）九三八一
ファックス　〇三（六二四〇）九三八二
ホームページ　http://jarp.or.jp/
※無断転載を禁ず

法人・団体　会員名簿

（2021 年 1 月 20 日現在）

株式会社イトーヨーカ堂
片倉工業株式会社
株式会社グリーンホスピタリティーマネジメント
五洋建設株式会社
新富産業株式会社
ＪＦＥスチール株式会社
損害保険ジャパン株式会社
大和証券株式会社
株式会社千葉興業銀行
株式会社千代田セレモニー
東京海上日動火災保険株式会社
東京建物株式会社
トーア再保険株式会社
トキワ印刷株式会社
西松建設株式会社
日本カーボン株式会社
ヒューリック株式会社
芙蓉総合リース株式会社
プラスエンジニアリング株式会社
文唱堂印刷株式会社
株式会社ベネフィット・ワン
丸大食品株式会社
みずほ信託銀行株式会社
株式会社みずほフィナンシャルグループ
株式会社ミツウロコホールディングス
安田不動産株式会社

（50音順）

会員の作品から

SIBUYA SKY ▶
出射 義幸

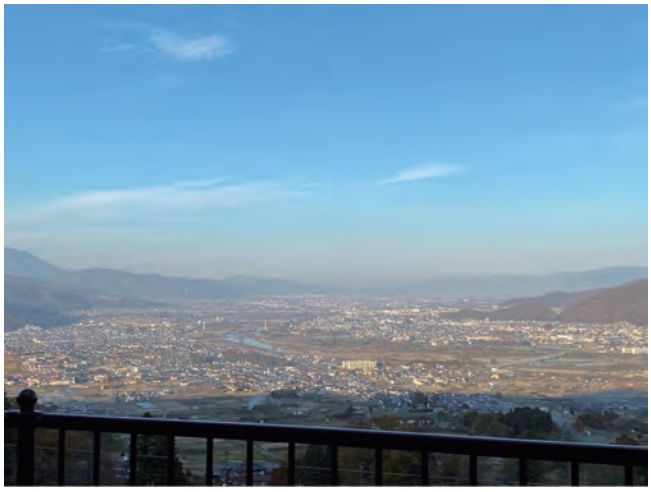
渋谷に新しくできた渋谷スカイのビル屋上での展望写真です。
「明治神宮の森」「代々木の体育館」「新宿の高層ビル群」が眺望できます。

◀「息　ぴったし ！」
坂本 喜美子

宮島水族館で、アシカのショーを見ました。始終、お姉さんと「息の合ったパフォーマンスに感心しました。常に笑いが絶えませんでした。

「お花畑でジャンプ」▶
三崎 昭幸

広島学院前のお花畑で、山手から出てきたウリボウが、何かに驚き、ジャンプしたところを写した一枚です。



◀長野盆地の情景「善光寺平」
出射 義幸

今では珍しい蒸気機関車時代の名残りのスイッチバックの駅：長野県の姨捨駅で見ることができます。

公益社団法人　日本産業退職者協会©